

選長城市磐

市民の要請断り切れず

長瀬氏嚴正中立を表明

長瀬、志賀のふるむ「親友の金額」からが然められたした磐城市長選舉の前よりの懸念は、参院選の終了とともに益々活躍となり衆目を惹きつけるが、磐城市の運命をなす市長選舉「親せき会議」で牛耳るようなら不解決なことをあえてした志賀派の行動に不満を抱く市民から強く忠告を要請され、その苦言を注目されたいた三代目長瀬氏が、遂に断わり切れず九日立候補の決意を披露するに至りたので、こんどは三代、志賀の一騎打といふ公算が誤った。なお三代の出馬が明らかになると同時に志賀氏との「親せき会議」で出馬を断念したといわれる長瀬氏は「親せき同志の争さうけよ」という口惜の願を立てて出馬をあきらめたが、それは志賀派に組じて代田と争うところの意味ではない」と十日嚴正中立を表明した。

資金はおれ達が

三代氏に集まる支援

前市長立花秀吉氏の急逝で市長となつた現職長瀬義義氏は立花派の経営者三代目長瀬氏や小野瀬平市長の尻押して出馬を決意した。といひが長瀬氏に立たれては二回とも改めて洋服を見た志賀派では勝敗がないと、志賀義平の参謀小野瀬、久譲が眞氏とも議論のある小名坂瀬港社長浦田文次郎氏を勧め、親せき同志で争うことには血で血を流すような結果になるからと口説かとし、二人では争はないといふ約束をさせたが、長瀬氏は詰腹を切らせたがたといつた。

志賀義平氏の急死で市長を立花秀吉が長瀬氏を断念させたことは、自分は県議会代議士で磐城市長瀬氏が長瀬氏が市政を担当、あわよくば現職長瀬氏は親せきのよしみで自分の後釜として県議會にすわらせたが、心ならずあると批判され思われぬ市民の反撃に火をつけてしまつたもの、この金額が表面化するや市民と市場

地、社会党など革新系が一派に志賀派攻撃の火の手を上げ長瀬氏の表をまかねた態度をおさらいにともう市議會に対する要望書を提出して出馬を要請した。

上荒川字能の下地内をそれぞれ税

志賀派攻撃の火の手を上げ長瀬

氏の表をまかねた態度をおさらいにともう市議會に対する要望書を提出して出馬を要請した。

坂本昌蔵、宮内孝理理事、大黒

保守、革新系が一本になつて出馬を要請する三代氏に續々と

資金力比べ、手弁当で働くから

と出馬を要請した。

① 大野大倉祇の親族は水は

下流の瀬戸木八十町歩を抱え

る大平瀬港に流れ込み、これに

ともない水稲の被害が、かなり

あるので早急に淨水場を拡張

して済金を淨水して好闘川に放流

すること。

相談した結果市町のこの間の要請

は済市議會のためを要請するが

であるとし遂に候補を決意した

ものである。これで磐城の市長選

は告示を前に三代、志賀の「騎打

」とつたわらだが、一部の伝え

るとこのによると志賀氏は「日程

労務者なら革新系を手弁当する

ところによると、志賀氏は「日程

労務者

